

第42回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和6年10月25日（金） 10時00分から11時45分まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	池島委員、池邊座長、岩本委員、内海副座長、大竹委員、金井委員、河原委員、菊池委員、北原委員、小金井委員、酒井委員、竹内委員、飛田委員、野路委員、樋上委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 座長、副座長の選任について 2 横浜みどりアップ計画について 3 横浜みどりアップ計画市民推進会議について 4 その他
議 事	<p>（事務局）</p> <p>定刻になりましたので会議を始めます。私は進行を務める戦略企画課、佐藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は委員の皆さまには万障お繰り合わせの上、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまから第42回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議についてご報告します。本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっております。委員定数17名のところ、本日は16名の委員がご出席であるため、会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>また、本会議は、同要綱第8条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録についても公開いたします。委員の皆さまには事前にご了承をお願いします。</p> <p>なお、会議録には個々の発言者氏名を記載いたしますので、併せてご了承ください。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等へ掲載することも併せてご承願いたします。</p> <p>次に、資料のご確認をお願いいたします。事前にご送付した資料は、まず、「次第」、資料1「みどりアップ計画について」、資料2「横浜みどりアップ計画 [2024-2028] 概要版」、資料3「横浜みどりアップ計画 [2024-2028]」の冊子、最後に、資料4「横浜みどりアップ計画市民推進会議について」です。次に、机の上に配付した資料についてご説明いたします。まず、上から「委嘱状」、「横浜みどりアップ計画 [2019-2023] 5か年の実績概要版」、そして、GREEN×EXPO 2027のパンフレットです。</p> <p>本日午後に調査部会にご出席予定の委員のお席には、午後の集合場所も配布しています。また、机の左上の白い箱にはガーデンネックレス横浜のマスコットキャラクター、「ガーデンベア」のピンバッジが入っていますので、ぜひお持ち帰りください。なお、緑色のフラットファイルには参考資料をまとめているのですが、こちらはお持ち帰りいただけない資料ですので、会議終了後は机にお戻しください。以上ですが、</p>

不足の資料等がありましたら、事務局にお申し付けください。

それでは、議題に入る前に、事務局側の出席者をご紹介します。

(事務局参加者紹介)

(事務局) それでは、一同を代表し、みどり環境局長の鈴木よりあいさつをさせていただきます。

(事務局) 皆さんおはようございます。みどり環境局長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。今日は雨でお足元の悪い中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

資料の紹介でもあったとおり、本日は第42回目となる市民推進会議ということで、歴史を重ねてまいりました。われわれはこれから第4期のみどりアップ計画をスタートしていきますが、今日は第4期が始まって初めての市民推進会議となります。半数以上の委員の皆さまが新規参加です。委員をお引き受けくださったことに心から感謝申し上げます。中でも6名の市民委員の皆さまには、ご応募いただいたことに感謝申し上げますとともに、会議ではぜひ、市民目線のご意見を賜りたいと思っています。

第4期となるみどりアップ計画は、「緑豊かなまち横浜を次の世代に継承する」という大きな目標を掲げて2009年度に始まりました。1期5年間であり、これまで1期から3期まで15年間を経過し、第4期が新たに始まるというタイミングです。これまでの取組の成果と見えてきた課題にしっかりと向き合いながら、今後どうすればよいかということを実際に考えていきたいと思っています。

横浜市の都心部、中心市街地は、にぎやかさの中に花や緑があり、また、少し郊外に行くと豊かな森や美しい農景観が広がっているといったところが横浜の特徴であり、今後に残していきたいところだとわれわれも考えています。

こうした豊かな緑を、未来を担う子どもたちにつなげていくために、新たな市民推進会議においても、委員の皆さまの積極的なご議論とご活動により、みどりアップ計画の各事業の改善や市民の皆さまへの情報提供にしっかりとつなげていきたいと思っています。

最後に、私ども組織の話をいたします。これまでは「環境創造局」として19年間やってきましたが、この4月から下水道部門と環境エネルギー部門を別の局に移管し、専門的かつスピード感を持って仕事をしていくことを狙いに、「みどり環境局」として新たなスタートを切りました。

先ほど、みどり環境局所属の主な部長、課長を紹介いたしました。このメンバーでしっかりと取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございます。

(事務局) それでは、次に委員の皆さまの自己紹介をお願いしたいと思います。恐れ入りますが、普段の緑に関する取組、市民推進会議で取り組みたいことなども併せてお話しください。会議の進捗の都合上、大変申し訳ないのですが、お一人方1分程度でお願いします。なお、スライドには「委員名簿」を投影していますので、併せてご覧ください。それでは、席順に内海委員からお願いいたします。

	<p>(内海委員) 地域計画研究所の内海と申します。最初の1期のときは広報部会専門委員で、前期から市民推進会議委員を務めます。緑化や農、緑地保全に私は非常に関心があり、それらは横浜にとって大事なテーマではないかと感じております。私自身はさしたることはできないと思いますが、よろしく願いいたします。</p> <p>(池島委員) 横浜国立大学の池島です。内海先生と同じく、前期から委員を務めています。委員の基本的な役割が事業を評価することなのは重々承知しているのですが、その評価の結果、見えてきた課題をどう解決するかといったところに結び付けられない限り、課題はずっと残ると思っているため、その辺りに取り組みたいと思っています。以上です。</p> <p>(岩本委員) 皆様、おはようございます。三保市民の森愛護会の岩本と申します。この会議に参加させていただき、私もいろいろな意見を発言させていただきました。市民の森や街路樹等の整備も非常によくできていて、市役所の皆さんには本当に感謝しています。今後も引き続き、よろしくご指導をお願いしたいと思っています。</p> <p>(大竹委員) おはようございます。大竹千広と申します。今年度から市民推進会議委員となりました。普段は農業を通じた人材育成、次世代育成ということでいろいろな事業をしています。今回委員となり、あらためて横浜の農業と魅力とをどう一般市民の皆さんに広めていくかを一生懸命考え、知恵を出したいと思っています。よろしく願いいたします。</p> <p>(金井委員) おはようございます。金井と申します。よろしく願いいたします。気楽な気持ちで応募して、まさか選出されるとは思わなかったのですが、このような場に少し緊張していますが、少々、自己紹介をいたします。 2年前にたまたま、青葉区後援の一般区民向けオープン講座の企画・立案に関わりました。講師の方から、「多様性」をテーマにと言われたのですが、テーマがあまりにも広いので、青葉区在住の外国人との交流を行うことにしました。留学生や外国人語学教員等にスピーチをお願いしたことにより、青葉区内の幾つかの大学と連携を取り始めました。そういった経験を少しでも今回のプロジェクトに生かせればとよいと思っています。現在想定していることと現実には大きなギャップがあるため、少し自信がないのですが、できる限り貢献できるように頑張りたいと思っていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>(菊池委員) ありがとうございます。菊池と申します。「委員名簿」にあるとおり、自治会・町内会が集まる横浜市町内会連合会というところから、今年、委員に指名されました。緑を通じた活動に私が最も期待しているのは、地域のコミュニティ力の向上であるため、その辺りを少し重点的に意識しながら頑張っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。</p> <p>(小金井委員) おはようございます。横浜農業協同組合の小金井と申します。私どもは農協なので、このみどりアップ計画の中では「市民に農を感じてもらおう」というところで、少し踏み込ん</p>
--	---

だ取組ができるのではないかと考えています。私自身は横浜市民であり、港北区に住んでいますから、緑の大切さを痛感しております。従って、そういった面からも、何かお話しできるのであればよいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(池邊委員)

千葉大学の池邊と申します。私は、2年前まで千葉大学でランドスケープのデザインを教えていました。今も千葉大学に籍はありますが、社会人の大学院でまちづくりに関わるブリッジ人材を育てる教育にも携わっています。

横浜市との関わりとしては、2009年のみどりアップ計画の立ち上げ時に、進士先生等と一緒に、日本大通りの開港記念館で、「みどりの市民税とはどういうものなのか」といったような、さまざまな議論をしたことを覚えています。当時はまだ、森林税しかなかったですね。

現在は、港湾局の指定管理者の評価に携わっていて、先週ちょうど、臨港パークや大棧橋、日本丸などを見て回りました。

そして、公園緑地等の関係では、山下公園のレストハウスの事業者選定にも携わり、以前は無料休憩所とトイレのあった場所が、「HAPPY LAWSON」になりました。現在はまた新しい飲食店となり、市民の皆さんにとっての楽しい施設になっているということをととても喜ばしく思っています。また、元町・中華街駅の立体公園はバラ園となっていて、結婚式場やフォトウェディングスポットとしてにぎわっています。この事業者選定にも関わらせていただきました。

その他、都市計画審議会や都市マスタープランにも長年、関わってきました。私自身は横浜市民ではないのですが、千葉から毎年、学生たちを横浜市に連れてきて、「横浜ってこんなに緑の素敵な所なんだよ」ということを見せてまいりました。この会議を通じて、そのことを市民の皆さまにも実感してもらいたいと思っています。よろしくお願いいたします。

(河原委員)

今年から市民委員になりました、河原真友子と申します。よろしく申し上げます。私は、約7年前に「はまふうどコンシェルジュ」を取得し、その後、農地や横浜の農業についていろいろと勉強をしました。横浜で唯一、畑のない西区生まれのため、「横浜にはこんなにたくさん畑があるのか」と、今更ながら非常に驚いています。

横浜で野菜農家を始めた方々の販路を開発するため、「はまふうどコンシェルジュ」としては月一回のマルシェを開催していますが、それが今年で6年目となります。また、去年は横浜の規格外の野菜と米を乾燥した、「こめノーラ」というグラノーラ商品を考案し、販売しています。この商品は、スープに入れると美味しいリゾットになるといったもので、横浜市の地産地消ビジネスの一つとしてお手伝いいただいていたものです。

横浜にはさまざまな農業があることを私はだいぶ分かったつもりですが、横浜市在住の友人に言っても、「え、そうなの」と、知らない場合がまだ非常に多い状況です。

私の本職はフードアナリストであり、「空飛ぶフードアナリスト」というキャッチフレーズで年間に約50回、地方を回っていました。しかし、コロナ後は地方を回れなくなったため、来年からは「耕すフードアナリスト」に改名して、フードアナリストとしてこれからも横浜の農業を広く伝えていきたい

と思っています。以上です。

(北原委員) おはようございます。北原まどかと申します。今回、公募市民として参加しています。普段は、認定NPO法人「森ノオト」の理事長として、主として、市民ライターの育成、地産地消に関わる情報発信、市民の花と緑に関わる活動、ウェブメディアとInstagram、紙媒体のデザイン・編集等の活動をしています。

この横浜の緑の魅力やそれを未来に残していくことの価値をどう市民に伝え、参加をしていく人をどのように増やしていくかといった視点で今回は参加したいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

(酒井委員) おはようございます。東京都市大学の理工学部機械工学科の学生で、酒井と申します。公募市民として参加いたします。私は普段、東京の環境保全系のNPO法人にて、主に町田市等のエリアでの里山保全や、東京の沿岸部での子どもたち向けの環境教育提供といった活動をしています。

私はこの中では比較的若いと思われるため、現在、子どもや高齢者の方々が中心となっている市民の森に、20代、30代の人がもっと入っていけるような企画を考えていきたいと思っています。これから2年半、よろしく願いいたします。

(竹内委員) 千葉大学の竹内と申します。よろしく願いいたします。私は池邊先生と同じ、ランドスケープの分野の教員をしていますが、専門は管理学の領域です。実は、4年前まで東京都の造園職として20年以上、実務をやっておりました。そこでは、工事の設計・監督、公園の管理・運営、また、都市計画、景観計画、農の計画に関する制度設計から現場の苦情対応まで担当しました。そういう意味では、実務に強いところがあると思います。

千葉大学に転職する前の17年以上の子育て期間はセンター北に住んでいました。そのため、子育てで忙しい時期に、子どもたちは都筑野菜で育ち、みどり税もお支払いし、センター北の緑のネットワークには非常に癒されました。息子たちも、横浜の緑を非常に印象深く感じながら育ちました。そういった意味で、現場での非常に良い取組や素晴らしい緑を、いかに持続的に維持できる政策にするかといったところに貢献できるのではないかと考えています。

それから、国際園芸博覧会に関しては、今年5月に横浜市で行われたフラワーガーデンショーに学生がコンテナを出展し、学生賞を受賞し、2027年にも参加できることになりましたので、引き続き、お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

(飛田委員) おはようございます。本年度から市民委員になりました、飛田尚弥と申します。よろしく願いいたします。岩本委員の隣の新治市民の森で長く愛護会員を務めています。三保市民の森の皆さんには恐らく、私どもがたくさんご迷惑を掛けているのではないかと考えております。申し訳ございません。今のうちに謝っておきます。

その他、私は登録した森林セラピストでもあります。今年度から(特非)森林セラピーソサエティでは、都市の公園を使った森林セラピーのプロジェクトを立ち上げ、東京都内の四つの公園で森林セラピーをどのように行うかを現在、検討

しています。横浜にもそういった取組をつなげたいという思いを持っています。

また、その他にも私は神奈川県の森林インストラクターでもあるため、いろいろな方に神奈川県の緑を紹介するといったことも日頃からやっています。その際にお会いする神奈川県民はもちろん、横浜市民の中にも横浜の緑を知らない方が数多くおられます。横浜市内の小学生が西丹沢にわざわざやってきて、「こんなに緑があるんだ。うれしいな」と言うのです。「じゃあ、君のおうちの近くにはどんな森があるの」と尋ねると、南の森があったりします。「これはおかしいのではないか。何とかしなければならぬのではないか」と思ったのが、市民推進会議の委員に応募した動機です。

ここには情報発信の専門家の皆さんがたくさんおられるため、横浜の素晴らしさを市民の皆さんに認識してもらうためのお手伝いできればよいと思っています。よろしく願いいたします。

(野路委員)

皆さん、おはようございます。私は横浜中央農業委員会の委員として、また、只今JAの理事として、常日頃、農家さんのお話をお聴きしている立場です。

今日の午後に調査部会で行く青葉台の駅のあたりは、私どもがいる場所ですが、私は委員会があるため、午後は失礼いたします。大変申し訳ないです。

今日、青葉台駅に降りたらお分かりになると思いますが、駅前からずっとビルが乱立しています。一方、一駅先の田奈駅は、駅前からすぐ、田んぼや畑が広がっています。一昨日、私共の畑に幼稚園のお子さんがお芋掘りをしに来ました。また、私共の田んぼに東京農大の学生さん、中学生や小学生の子ども達に来て、稲作の収穫体験をします。これはもう10年も前から続いているものです。今後も農業の存続・発展に、微力ながら貢献していきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(樋上委員)

おはようございます。私は「よこはま緑の推進団体連絡協議会」という団体で会長を務める、樋上と申します。よろしく願いいたします。

われわれの組織についてご説明します。横浜18区の中には、花と緑で横浜を元気づけようということで花壇作りを行う団体があり、18区それぞれに連絡会があります。その連絡協議会が私どもです。横浜市内では、約700もの団体が花壇作りを頑張っていて、1団体の平均を10名とすると約7000名の仲間たちがいるわけです。なお、公益財団法人横浜市緑の協会の支援を受けています。

2027年にはGREEN×EXPO 2027が始まります。私どもも何らかの形でお手伝いしたいと考えています。それと同時に、このみどりアップ計画についても、われわれの仲間たちは何らかの形でお手伝いしたいと思っていますので、私が代表して参加しました。ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

(望月委員)

関東学院の望月と申します。よろしく願いいたします。このみどりアップ計画も今年で16年目ということですが、横浜には緑というものが定着してきました。まさか、行政の組織名まで「みどり環境局」に変わるとは全く予想もしておらず、本日、この会議に参加して本当に驚きました。横浜市は、

そこまで緑に力を入れていくのかということをおぼろげに実感しました。今後とも、みどりアップ計画のために行政の皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局)

委員の皆さま、ありがとうございました。

それでは、ここからは「次第」に沿って進めます。「次第」の1番、「座長・副座長の選任」です。

横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第4条第2項の規定に、「座長は市民推進会議の中から委員の互選により定める」とあります。規定に従い、前回の第41回市民推進会議にて池邊委員が選出されましたので、本会議より池邊委員に座長をお願いしたいと思います。それでは、池邊座長から一言、ごあいさつをお願いいたします。

(池邊座長)

あらためまして、池邊でございます。本日は皆さま方、お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。私は、先ほどお話ししたように、前回まで座長を務めておられた進士先生と共に、この市民税によるみどりアップ計画の初期から関わらせてもらいました。

今日お集まりの皆さんは、緑が好きな方、緑を広めたいと思っておられる方がほとんどだと思います。しかし、先ほどのお話にもあったように、一人当たり毎年900円を給与から天引きされる横浜市民の中には、「公園なんか要らないよ」と言う方々もおられます。また、最近では倒木などの問題が発生し、大阪などでは非常に多くの木が切られたりもしました。つまり、誰もが緑が欲しい・増えたほうがよいと思っているかということ、必ずしもそうではないのです。

一方で、人々の心に対する緑の効能、農福連携といった福祉分野における取組、地域のコミュニティーガーデンづくりなど、さまざまな分野で緑が注目されつつあります。

さらに、横浜市は、前期の都市緑化フェアにおいてバラを使った都市のブランディングに成功し、2027年には国際園芸博覧会を迎えます。

このような時期に、私たち委員はみどりアップ計画の各施策を評価する立場にあります。

みどり税は、2009年に全国でも先例のない取組として議会を通過しましたが、今後もそれを継続できるかどうかには、皆さまの評価・提案が重要です。

これからの5年間、より多くの市民に緑が何をもたらすのかを知ってもらい、また、2027年の国際園芸博覧会を訪れる世界中の方々に、「みどり税があるからこの町の緑はきれいなのか」、「この町の緑にはおもてなしの心が感じられる」、「横浜には緑を愛する人たちが多く」といった感想を持ってもらえよう努めたいと思っております。

今日は第1回であるため、私も少し硬いあいさつをしていますが、私の信条は、「一般市民に参加していただくためには、まず、自分たちが楽しんで働きかけないといけない」というものです。もちろん、市の職員の皆さんは重々、ご承知だと思っております。従って、この推進会議においても、厳しい目で施策・成果を評価することも大事ですが、まず、委員の皆さんが楽しみながら、みどりアップ計画の新しい施策を打ち出していけるようにしたいと思います。

緑を取り巻く状況は刻一刻と変化し、みどりアップ計画の施策にも不十分なものもあるかもしれません。今回から新し

	<p>い市民委員、学識経験者の方々が委員に加わりました。横浜市のみどりアップ計画が全国に先駆けた緑の先進事例となるべく、皆さまと一緒に温かく見守っていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。</p>
(事務局)	<p>それでは、今後の議事進行につきましては、池邊座長、よろしく願いいたします。</p>
(池邊座長)	<p>それでは、要綱に基づき、最初に副座長の指名をしたいと思えます。これまでも、副座長として市民推進会議を支えてくださった内海委員に副座長をお願いしたいと思えますが、内海委員、いかがですか。</p>
(内海委員)	<p>拒否できないですね。</p> <p>(一同拍手)</p>
(池邊座長)	<p>ありがとうございます。それでは、内海副座長、こちらの席に移動して、一言、ごあいさつをお願いします。</p>
(内海副座長)	<p>それでは、副座長を務めさせていただきます。今、池邊先生から、「どのような視点」というお話がありましたが、横浜市内を中心した緑地の保全、緑化、農に関する支援や実態調査といった形で、私は関わってきました。</p> <p>農については自分でもやっていたのですが、今は少し腰を壊したため、できない状況です。しかし、横浜市内には、「そんな活動までやっているの」というぐらい、多種多様な多くの農に関する団体・グループがあります。また、9割を超える小学校・保育園では、教科の一環あるいは総合学習として農の体験活動を行っています。</p> <p>横浜は、外向けには「港町横浜」というイメージのみで語られることが多いのですが、人口の6割以上が住む郊外部における緑は大きな特徴であり、非常に重要な問題でもあると思っています。</p> <p>先ほどの皆さんの自己紹介を聞いていると、農や緑化の問題をはじめ、実践的な活動にも取り組んでおられ、深い見識をお持ちの様子がうかがえました。実践を踏まえた皆さんのご見識・ご意見が会議の中で交わされ、みどりアップ計画の各施策がより中身を伴って推進できるようにお手伝いしたいと、私も考えています。池邊先生のフォローアップをどこまでできるかの自信はないのですが、よろしく願いいたします。</p>
(池邊座長)	<p>内海副座長、ありがとうございました。</p> <p>早速ですが、議題2に入ります。「次第」の2番「横浜みどりアップ計画について」、事務局からご説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局説明)</p>
(池邊座長)	<p>ありがとうございました。それでは、今ご説明いただいた「横浜みどりアップ計画」について、委員の皆さまからご質問があればお伺いします。今日は初めての会議であるため、まず、名乗ってからご質問をお願いします。それでは、どなたからでも結構です。挙手をお願いします。事前に配布され</p>

た資料について、初見では全てを理解することが難しいかもしれませんが、何かございますか。

(野路委員) 水田保全の5カ年計画にまた力を入れていくというお話がありました。水田に関しては以前、10年単位でやっていくことを確約し、水田を作っている方が継続できるように奨励金が出ています。しかし、それから20年がたち、当時、水田を作っていた方々も高齢化し、水田をJAの受託事業に委託する方も増えてきました。

そこで、水田については、水田としてだけの保全事業ではなく、災害時のいろいろな場面を想定した上で保全すべき水田を選定し、そこは今後も水田として残せるように、この奨励制度をできるだけ長く続けてほしいと思います。

また、私はJA側の人間でもあります。現在、横浜市のJAは一つに集約され、助成を受けられないことも多くなりました。以前は、農作工具・農機具などに対する助成を頂戴していました。しかし、一つのJAになったため、一度助成を受けたから駄目といったことで、受託・委託事業の遂行が困難な場合も生じています。水田をできるだけ保全していきたいと考えていますので、ぜひ、ご検討をお願いします。

また、肥料、農機具の高騰に加え、就農者の年齢も高齢化しているため、この水田の景観を末永く維持できるように、このみどりアップ計画でぜひとも応援してもらいたいと思います。以上です。

(池邊座長) ありがとうございます。今の野路委員からのご意見について、事務局から回答をお願いします。

(事務局) 今回のみどりアップ計画では水田に関する施策を拡充しています。しかし、みどりアップ計画はあくまで、市民向けの取組ですので、農家向けには別途、「横浜都市農業推進プラン」として一般会計の中でしっかりと支援していきたいと思えます。

今回のみどりアップ計画の農業部門は、前回の計画をほぼ踏襲しているのですが、水田に関する施策は拡充しました。先ほどお話のあった、水田を保全する、水田の景観を守るための奨励金は継続していきます。

加えて、今回の計画から新たに追加された施策もあります。これまでの奨励金は水田の所有者だけが対象でしたが、借りた水田を耕作している方々も奨励の対象となります。

そして、農地を効率的に管理するためには、今の時代、どうしても農業機械が必要になります。そこで、それらの機械を使って水田景観を保全している個人・団体等も奨励金の対象となります。

ただし、奨励金は横浜みどり税を活用するため、生業との関係など、税制調査会の中でもさまざまな議論がありました。そういった点については、市民の方々に対しての景観保全という考え方の中で、しっかりと進めていきたいと考えています。以上です。

(池邊座長) ありがとうございます。野路委員、よろしいですか。

(野路委員) はい。

(池邊座長) ありがとうございます。それでは、菊地委員、お願いい

たします。

(菊池委員) 資料をありがとうございました。とても勉強になりました。私は町内会長をもう20年やっているのですが、ほとんどの市民はこれらのことを知らないと思います。みどりアップ計画の成果として、「今度はどこで何ヘクタールをやりました」という報告を区連会で聞いたことはありますが、誰がそういう提案をして、市民がどう協力したのかということについては、自治会・町内会の方々のご存じないのです。つまり、この冊子の内容はここでは理解できますが、市民は知らないのです。それらを知らしめた上で協力を得るほうが良いと私は思います。

それから、私は柱3が一番問題だという気がします。いくら制度を作っても、やり方を知らないのです。これだけやっているのに、市民はなぜ知らないのでしょうか。市民に知らせるための方策をなぜ取らないのかが気になりました。

今度パブリックコメントを実施しますが、いつも1カ月程度延期します。周囲に聞くと、これがどう反映されているのかわからないと言います。横浜市の説明では、「意見を聞きました」と言いますが、市民に意見を聞く前に、その内容を説明していないことが問題だと思われま。

つまり、みどりアップ計画の実現のためには、計画の中身を充実させることも大事ですが、知っている人しか分からないことは大きな問題だと思います。広報等を検討する部会もあるようですが、実際に地域の基本組織は町内会ですから、町内会に知らしめるやり方を考えないと駄目だと思います。その辺の戦略が、過去の計画においてはほとんどなかったようです。ぜひ、ご検討をお願いしたいと思います。

(池邊座長) ありがとうございます。今のご意見について、事務局から回答はありますか。部会としては広報部会がありますね。

(事務局) ご意見をありがとうございます。みどりアップ計画の成果、やっている内容、どういうメニューがあるかなどが市民の皆さまにあまり伝わっていないというところは、実は、みどりアップ計画の開始当初から大きな課題の一つとして指摘されているところです。

先ほど、計画の説明の中でも少し触れましたが、私どもとしては、みどりアップ計画の三つの柱とともに、効果的な広報の展開にも力を入れて取り組んでいるつもりですが、まだまだ実際の成果にはつながっていないところがあると思います。

この市民推進会議においても、委員の皆さまのご提案・ご意見を頂戴しながら、私どもとしてはその辺りに力を入れて取り組んでいきたいと考えています。ありがとうございました。

(池邊座長) ありがとうございます。菊池委員、よろしいですか。

(菊池委員) よくはないですが、よろしく願いますということです。

(内海副座長) 今の件に絡んで申し上げます。毎年実績の評価・検証の報告書が出されますが、その後ろのほうに区ごとに行った実績が掲載されています。それが最も市民に近い情報だと思われまますが、要するに、それが届いていないということです。区

のレベルで説明をするような機会が実質上ないため、どのように公表するのか、また、市民に届けるのかといったことについてもう少しきちんと考えるべきだと思います。そのことが一つ、重要な取組ではないかと考えます。

地図にポイントを落としたものもありますが、市民としては、それらが自分の近くかどうかということがすぐには分からないと思われるため、なかなか難しいとは思いますが、あれをどううまく使うのかといったところがまずひとつだと思います。

成果が特に分かりにくかったのは、特別緑地、要するに、山林の部分でした。一方で、例えば、地域緑のまちづくり事業は、現地に看板が設置されているため、「これは地域緑のまちづくり事業でやったのか」ということが、看板を見れば分かるようになっていました。しかし、森の場合は広いため、ある特定の場所だけに看板があっても、なかなか市民の目にとまらないと思われます。一番難しいのはそこなのではないかと、私は思っています。

(池邊座長) ありがとうございました。今のご意見に対して、事務局から何かありますか。

(事務局) 今、内海副座長からご案内された資料は、区ごとに、過去5年間あるいは今年度、昨年度にみどりアップ計画の事業を実施した場所をプロットし、事業の一覧と代表的な事業箇所の写真を添付したものです。この資料を使って、毎年、18区の連合町内会長さんが参加される会議で説明をしております。

みどりアップ計画の開始当初は、そういった資料はなかったのですが、いろいろなご指摘を頂戴した結果、始めた取組です。しかし、表現の仕方、伝える場など、まだまだ工夫と改善の余地があると考えています。

投影された、こちらの資料ですね。

(内海副座長) この資料は良かったですよ。

(事務局) ありがとうございます。

(内海副座長) 「うちの周りにあるな」ということが分かりますね。

(菊池委員) 区連会で説明してもらったときも、みんな、「おお」と言っていましたからね。

(事務局) そうですね。そういう場面が増えるよう、引き続き、取り組んでいきたいと思えます。

(池邊座長) ありがとうございました。他にありますか。

(飛田委員) この冊子を見る限りでは、「30by30」やSDGs関連に対してどういった形で対応していくかということが、私にはよく分からなかったです。特に「30by30」については、専門家が参加していないと、環境省が登録を受け付けられないはずですが、市としてはそこをどうお考えなのかについてご説明をお願いします。

(池邊座長) 事務局、今のご質問について回答をお願いいたします。

	<p>(事務局) ありがとうございます。「30by30」やSDGsの目指すところに、みどりアップ計画は大きく貢献するものであるという大前提の下、われわれは取り組んでいるつもりです。</p> <p> 今、おっしゃったのは、「30by30」の登録地のことだと思います。これまでのところ横浜市では、みどりアップ計画で進めている市民の森や特別緑地保全地区を「30by30」の登録地として位置付けてはいませんが、その登録地になり得る事業だと考えています。</p> <p>(飛田委員) 市民の森や特別緑地保全地区が「30by30」の登録地になり得ることは、愛護会員は皆、分かっています。しかし、先ほどの広報の話につながるのですが、例えば、『「30by30」やSDGsにどう関連しているか』ということをはっきりと伝えないと、「ああ、やっているな。ああ、そう」と、それで終わってしまうと思います。</p> <p> 特に、「30by30」のような取組では、最上位の国連を含め、非常にはっきりした広報手段が提供されているため、それを使わないのはもったいないと思います。従って、市としては今後、それらとみどりアップ計画をどうつなげていこうとお考えなのですか。</p> <p>(池邊座長) 事務局、回答をお願いします。</p> <p>(事務局) 今のご意見も、取組の内容や成果を市民の皆さんにどうお伝えしていくかといった広報関連のお話だと思います。菊池委員からは、自分たちの近くにある成果を伝えるというご指摘を頂戴し、また、今のご意見のように、世界的な潮流の中におけるみどりアップ計画の取組の位置付け・成果を伝えたほうがよいとのご指摘も頂戴しました。繰り返して申し訳ないのですが、その辺りについては、われわれとしても今、精一杯取り組んでいるつもりではありますが、さらに幅広いご指摘をいただきながら、市民の皆さんに分かりやすく伝えられるように取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございました。他はよろしいですか。</p> <p>(酒井委員) きれいな資料をありがとうございます。20ページのところについて質問します。「森を育む」事業で市の買い取りの想定面積が100ヘクタールとあり、非常に大規模で素晴らしいと思いますが、掲載されている写真を見ると、高低差のある傾斜地や飛び地が多いように見受けられます。山林保全的な観点からすると、高低差が急になればなるほど人が入りづらくなり、維持管理の効率も落ちてしまいます。従って、そういった土地は、子どもや高齢者を含め、一般の人は活動しにくい土地だと思われます。新治市民の森や三保市民の森と比べて傾斜や段差の強い樹林地の場合、それをどう市民が楽しめるのか、その中で活動できるのかということがあまり見えませんでした。</p> <p> 他と比べて維持管理の費用や労力が必要な土地をあえて買い取って、この活動を続けていく意義、また、そういった土地の活用案についても教えてほしいと思います。</p> <p>(池邊座長) 今の酒井委員の質問に対して、事務局から回答をお願いします。</p>
--	---

(事務局)

ありがとうございます。今ご指摘を受けた急傾斜のある山をどう活用するのかについては、私どもが日々、事業を進めていく中で、まさに悩んでいるところです。道路付きが良く、市民の皆さんが入りやすい緑はもちろん優先的に制度指定をして保全をしています。しかし、それ以外の人になかなか入れないような所も、緑として存在し、一定の機能を発揮しています。みどり税という市民税を使う以上、私どもは優先順位を付けて事業を進めていますが、そのような傾斜地・段差のある土地についても、周りの状況なども踏まえながら、取組を進めるかどうかを判断してやっている状況です。

先ほど申し上げましたように、人が入れない土地は全く事業の対象にしないかという、そういうわけではなく、さまざまな要素を勘案しながら、事業の対象にする・しないということを決定しています。

(池邊座長)

よろしいですか。では岩本委員、よろしく願いいたします。

(岩本委員)

2027年に国際園芸博覧会を開催するというところで、行政のいろいろ部門で今、準備を進めておられると思います。その中で、市民の森や街路樹についてはここ数年、非常に整備が進んでいます。2027年に向けて、さらにさまざまな事業を進めていくのだらうと思います。

以前、私は、2027年の国際園芸博覧会についてPRが少ないのではないかという意見を発言させていただきましたが、今は広報も充実し、市民の皆さんの園芸博に対する関心も高くなっています。

そういった状況を踏まえて、これから幾つかの話をします。まず、みどり税については、私はこれからも継続してほしいと思います。60ヘクタールの新治市民の森、40ヘクタールの三保市民の森が近隣にあるのですが、その周辺には団地や住宅がたくさんあり、市民の森を自分の庭として毎日、大勢の方が森に入っておられます。その方々にお話を聞いたところ、「非常に空気がいいし、環境も良いので、ぜひこの森を継続してもらいたい」という意見がほとんどであり、緑に対して反対するような意見は一度も聞いたことがありません。そういう意味でも、この市民推進会議を通じていろいろな施策を進めてほしいと思います。

市民の森に隣接した道路や森の周りがある河川は土木事務所管轄です。道路や河川に関する市民からの意見を私たちもお聞きしていますが、それらに関する取組についても会議の中でお伝えして、みどり税で対応できないところは本税で賄うような支援もお願いしたいと考えています。

また、先ほど、酒井委員から森の管理についてのお話がありました。森によっても異なりますが、「市民の森」という位置付けであっても、歩道以外の場所に一般市民が自由に入っているということにはなっていません。そういった点についてもPRが必要ではないかと思えます。

実は、私どもの三保市民の森にも、中に入ると立ち枯れの木や、その他にも危険な場所がたくさんあります。従って、市民の森にもそういう危険な所があることについてもPRや指導などが必要ではないかと思っています。

それから、自宅の周囲には緑地保全地区、源流の森といった広い森もあります。みどりアップ計画の中で、市民の森等

	<p>は今、非常に力を入れておられるようですが、それに比べて、源流の森、緑地保全地区はほとんど手付かずといった状態ではないかと思われます。他の取組と並行して、源流の森、緑地保全地区についてもご考慮をお願いします。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。</p>
(池邊座長)	<p>ありがとうございます。今の岩本委員のご意見に対して何かありますか。</p>
(事務局)	<p>幾つかのご意見を頂戴しましたが、最初のGREEN×EXPO 2027との関係について、少しだけお話しさせてください。瀬谷区の上瀬谷で開催される GREEN×EXPO 2027の準備を今、進めています。みどりアップ計画の取組として上瀬谷エリアの整備等を行う予定はなく、GREEN×EXPO 2027は、GREEN×EXPO 2027の事業費の中で進めることになっています。ただし、国際園芸博覧会が開催されるに至った理由の一つとして、横浜市がみどりアップ計画の取組を15年前から続けてきたことがあるのではないかと私どもも思っています。</p> <p>市街地や公園等ではみどりアップ計画のさまざまな取組を行い、また、冒頭に池邊座長からもあったように、花を使ったにぎわいづくりといったことにも取り組んでいます。そういった取組は、GREEN×EXPO 2027に向けて市内全体の機運を高めることにつながると思ひます。そういった観点から、みどりアップ計画を通じてGREEN×EXPO 2027にも貢献していきたくと思ひ、取組を進めているところです。</p>
(池邊座長)	<p>ありがとうございました。竹内委員、お願ひします。</p>
(竹内委員)	<p>すみません。1点だけ、質問します。素晴らしい計画だと思ひますし、本当にいろいろな面で実績も上がっていると思ひます。</p> <p>前期である3期目の成果を見ると、かなりの部分で素晴らしい成果を上げていると思ひますが、例えば、緑地保全制度の新規指定、土地所有者の土地の買取り、森づくり活動の専門家への派遣、農園付き公園の整備など、少々目標に届かなかった部分もあるようです。そのような課題のある部分については、次期の計画の際に方法を検討する、もしくは、大きく注力するなどが必要なのではないかと思ひます。前期の課題のうち、事務局として、委員の皆さんの意見を聞いた上で方策を検討して頑張っていきたいところ、あるいは、ポイントがあれば、教えてください。よろしくお願ひいたします。</p>
(池邊座長)	<p>事務局から回答をお願いします。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございました。ご指摘のように、第3期において目標未達だった取組・事業は幾つかあります。それらについては、「5カ年の事業・取組の評価・検証」という資料に示したように、前期の全取組の結果、その結果に至った理由を私どもなりに評価・検証し、それらを踏まえた上で新たな計画を作ったという流れになっています。具体的に事業をどう進めていくのかという詳細の説明はこの場では差し控えますが、今申し上げたような視点を持って進めていきたくと思ひています。</p>

	<p>(池邊座長) ありがとうございます。 今の話も含め、だんだん市民推進会議の内容に入ってきたため、次の「次第」に進みたいと思いますが、委員の皆さん、よろしいですか。 それでは、「次第」の3番「横浜みどりアップ計画市民推進会議について」、事務局からご説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(事務局説明)</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。 それでは、ただ今のご説明に関して何かご質問はありますか。 菊池委員、お願いします。</p> <p>(菊池委員) 専門部会は「年1回」と書いてあって驚いたのですが、たった1回だけなのですか。これは、計画が既に出て上がっているため、それに対して意見する会議が1回ということですか。私は初めてのため、会議で何をすればよいのかがよく分からないのです。</p> <p>(事務局) 「森を育む」、「農を感じる」、「緑を育む」という三つの専門部会ではそれぞれ、年に1回、各施策の通年実績をご覧いただきながら評価・検証を行います。専門部会では、各施策についてできているか・できていないかの評価をし、後者については、「こういったやり方があるのではないか」などのご提案を委員の皆さまから頂戴する場と考えています。従って、専門部会は原則的に年1回ということになっています。</p> <p>(菊池委員) それでは、専門部会は年度末に開催されるのですか。</p> <p>(事務局) 実績が出た段階で開催するため、原則的には年度末以降となります。</p> <p>(菊池委員) ありがとうございます。</p> <p>(池邊座長) 他にご質問はありますか。</p> <p>(飛田委員) この会議の内容は公開されるということですが、私が会員資格を持つ神奈川県森林インストラクターのホームページ等にも、この会議の公開先リンクを貼付してもよいですか。</p> <p>(事務局) もちろん、結構です。ありがとうございます。</p> <p>(飛田委員) ありがとうございます。</p> <p>(池邊座長) 他にございますか。北原委員、お願いします。</p> <p>(北原委員) 広報・見える化部会の活動例として挙げられている、広報誌の『YokohamaみどりアップAction』はとても素晴らしく、よくデザインされ、編集されていると思いながら、私も拝見していました。今後も、同じように紙媒体の広報誌にするのか、それとも、SNSなどを活用するようになるのかなど、どの方向に進んでいくのかについて少し教えてください。</p>
--	---

	<p>(池邊部会長) 事務局から回答をお願いします。</p> <p>(事務局) ありがとうございます。広報・見える化部会では、広報媒体を含め、広報をどのように行うのか、また、どのように行えば効果的かなどの議論をお願いします。従って、これまでの取組をそのまま継続するという方向ではないとご認識ください。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。他に質問はありますか。ありがとうございます。 それでは、続けて、「今後のスケジュール」と施策別専門部会について、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。今のご説明のとおり、皆さま方は全員、調査部会に所属し、さらに、「森を育む」、「農を感じる」、「緑をつくる」という三つの部会のいずれかと、人によって「広報・見える化」部会に所属することになります。そして、来年5月ぐらいに専門部会を開催するといったスケジュールになります。今のご説明について、何かご質問があればお願いします。 先ほど、菊池委員からご質問がありましたが、本日以降、専門部会が一度も開催されずに3月に本会を行い、来年5月に1回だけの開催ということになると、皆さま方としては多分手持ち無沙汰ではないかと思えます。しかし、施策の評価をするためには実績のデータが必要です。年度が終わって上がってきたデータを集計した実績について皆さまに議論をお願いするのが通例であるため、今期もそういった形でお願いします。 そして、皆さまが所属する部会については、本日、決定します。スライドをご覧ください。これでご理解してくださいませ。よろしいですか。 それでは、スライドのとおり各委員の所属部会を決定します。委員の皆さま方は来年度の部会まで時間があきますが、各部会の活動へのご協力をよろしくお願いします。 それでは本日の議題は全て終了いたしました。最後に、事務局から午後の活動等に関する連絡事項をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。では、委嘱状と、午後に参加されない方は名札も机上に置いてくださるようお願いします。</p> <p>(事務局) 本日はご出席くださいまして本当にありがとうございます。事務局の不手際があり、大変申し訳なく感じております。申し訳ございません。 本日は、計画の内容や今後の進め方についての説明がメインでしたが、早速、多くのご質問やご意見を頂戴しました。その他にもご不明な点等があれば、事務局までお知らせください。個別にご説明いたします。 先ほどの説明のとおり、来年の専門部会では、今年度の実績を踏まえ、各施策についての評価・提案をお願いします。皆さまの貴重なご意見を反映して、より充実した緑の取組にしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いし</p>
--	---

	<p>ます。また、市民委員の皆さま方には、早速、広報・見える化部会での活動をお願いします。さまざまなバックグラウンドをお持ちの皆さまが集まってくださいましたので、未来志向の新しい視点で、情報発信の在り方についての積極的なご提案とご検討をお願いします。</p> <p>そして、委員の皆さまからお話があったように、2027年には上瀬谷で国際園芸博覧会が開催されます。この開催意義は、「花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信します」というものです。みどりアップ計画は、「みんなで育む緑豊かな美しいまち横浜の実現」のための取組ですから、GREEN×EXPO 2027もその実現に向けた一つのきっかけにするとともに、持続可能な形で継承できるようにしたいとも考えています。市民や関係者のご理解・ご協力の下、委員の皆さま方のお力をお借りして、職員一丸となって緑のための取組を進めていきたいと思えます。本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>(池邊座長) ありがとうございます。</p> <p>(事務局) 以上で、市民推進会議を終了します。ありがとうございました。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料1 みどりアップ計画について 資料2 横浜みどりアップ計画[2024-2028]概要版 資料3 横浜みどりアップ計画[2024-2028]冊子 資料4 市民推進会議について</p>